

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 協仁会 グループホームなごやか
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	大阪府寝屋川市川勝町11番27号
記入者名 (管理者)	西 浦 福 子
記入日	平成 19 年 9 月 4 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>家庭や地域に開かれた施設とし、施設目標や年間目標にして職員が共有しながら取り組み、利用者本位に地域理念もつくり、あたり前に暮らし続けられるように、日常的に支援もしている。</p>	○	<p>地域に理念やグループホームの役割が理解されるように、考え方を伝える機会や啓発・広報活動を積極的に取り組みたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を実践させるために、会議などでも話し合い、ケアの原点となる理念が理解し浸透するように取り組んでいる。</p>		<p>日々の方針や年間目標に具体化させて、職員が取り組みやすいようにしている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族へは、入居時や家族会(年2回)などで説明し理解してもらっている。</p>	○	<p>理念をパンフレットやホーム便り(なごやかだより)などにも記載し、グループホームの意義や役割を地域にも広めて行きたい。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>定期的に地域の老人会に出向き、世話役の方や地域の高齢者と話をしたりの付き合いはしている。また、地域のボランティアに働きかけ外出支援を利用し、近隣に出かけている。</p>		<p>老人会には月1回、外出支援ボランティアの利用は週1回のペースで実施している。地域の中学生の職場体験学習や介護に関心がある市民の見学などを積極的に受け入れている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>運営推進会議や老人会に参加し、入居者と一緒に地域の人々と定期的な交流で関係を深めている。</p>	○	<p>自治会等への参加を積極的に行うこと。地域の盆踊り大会や老人会にも定期的に参加し交流している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人会や自治会長を通し、地域の高齢者の役に立つことがないかなどの、交流会を企画しているところである。	○	独居老人昼食会や介護についての勉強会の企画など。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームにおける質の確保や向上に向けた再点検と改善に向けた課題が具体的に見い出せ、職員全体で話し合い日々のケアに活かしている。	○	課題を具体的に知り、会議などで話し合い改善し、良質なケアサービスにつなげている。評価結果をもとに職員一丸となり、今後も計画的に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開き、要望や改善点が出た場合は、職員間の会議で話し合い改善し、サービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	寝屋川市の包括支援センターのネットワーク会議での研修やグループホームの担当者会議等に参加し、質の向上に取り組んでいる。	○	介護保険事業所ネットワーク会議に定期的に参加している。今後も開催時には必ず参加し、情報交換や質の向上につなげて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の中で成年後見人の支援を受け活用しているので、今後も必要な人には活用できるように積極的に支援したい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会に参加し、職員間でも話し合い虐待防止に努めている。	○	外部の研修へも積極的に参加して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に運営規定や利用契約、重要事項説明書などを明示、説明し理解・納得していただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や希望・不満などを気軽に言えたり、相談できるようにしている。入居者も運営推進会議に参加し、意見を聞き日々反映させている。(相談窓口や法律相談等もある。)	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話での連絡、ホームだよりなどでも暮らしぶりを含めた近況を報告している。	健康状態などは特に、面会時や電話で随時報告・連絡をしている。ホームだより「なごやかだより」を2か月に1回発行し一人ひとりの暮らしぶりをお知らせしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での連絡、ホームだよりなどでも暮らしぶりを含めた近況を報告している。家族会・運営推進会議等で機会を設け、意見や要望を反映させられるよう話し合い、取り組んでいる。(相談窓口・法律相談の紹介もしている。)	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議で機会を設け、話し合い反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度、協力し合い勤務の調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響が出ないように、精神的なフォローは特にしている。全体会議・フロア会議を利用し、不安や支障をきたさないようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時あるいはフォローアップ等、それぞれの段階に応じた内・外部研修を職員が受講できる体制になっている。研修後は勉強会(学習会)等で、他職員のフォローアップに努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や寝屋川市の包括支援センターのネットワーク会議ら研修に参加し、質の向上に取り組む活かしている。	○ 介護保険事業所ネットワーク会議に定期的に参加し取り組んでいる。(6か月に1回)今後も開催時には、必ず参加したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各フロアや全体での会議の中で、気軽に話し合いが出来るようにしている。また、行事後に会食したりしてストレスの軽減をしている。	○ 法人内のカウンセリングルームの活用。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の経験や得意分野が個々に、発揮しやすいように小グループの委員会を作り、毎月1回会議を開催し活動している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日常的に相談事などに対応できるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設説明、見学、体験入居などを行い、家族の不安や求めていることなどを聴く機会をつくっている。	入居される前にフロア全体でその方についてカンファレンスをし、同じケアができるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があれば話し合い支援を見極めて、できる限り支援している。施設内では難しい場合は、法人内の多機能性を利用し対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、外泊・外出・面会などで不安を取り除き、安心して生活が送れるようにしている。		好きな物(趣味など)を通して他の利用者、職員とコミュニケーションが取れるように努力している。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に出来る範囲で洗濯干し、調理、掃除などを行い、食事でも入居者と雑談しながら食べている。会話の中で学ぶことも多く、その中で関係も築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで入居者の生活習慣等を家族に教えて頂きケアに役立っている。		‘なごやかだより’発行し、なごやかでの生活を撮った写真を一緒に送付し近況報告している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	夏祭り、ランチパーティーなどの行事に参加して頂き、本人と家族が楽しい時間を過ごせるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、入居者が電話し易く、訪問し易い雰囲気作りに努めている。		地域の老人会に月1回参加し関係継続の支援などもしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の性格を理解し、その方に合った場の提供を行っている。レクリエーション等の参加を促し、利用者同士が関わりを持てるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	不定期ではあるが手紙などで現状を尋ねたり、面会に行くこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日の生活の中でコミュニケーションを取りながら、入居者の思いなどを把握するように努めている。困難な場合は本人本位になるように家族・スタッフなどで検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や電話などで蜜に連絡を取り合い、これまでの暮らしなどの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護計画書や申し送りにより把握できるようになっており、日々の変化も記録に残している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行い、入居者の現状・家族の意向・今後の方針などを話し合い、介護計画を作成している。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に1度スタッフ・家族などの意見を聞き、介護計画の見直しを行っており、現状に変化があった場合はその都度カンファを行い、見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を毎日残しており、情報を共有できるようにしている。また実践や介護計画の見直しに役立っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があればその都度、部署内で話し合い支援している。部署内だけでは難しい場合は、法人全体の多機能性を利用し支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアなどの協力で、定期的に外出や話し相手、余暇活動で協働している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険事業所ネットワーク会議等に参加したり、必要に応じて他のサービス事業者と連絡を取り合い(サービス担当者会議を含め)支援している。	○	今後も他サービス事業者と協働し、必要に応じた支援をして行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的な会議に参加したり、必要に応じて協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人で、病院が隣接しているため、支援も万全である。かかりつけ医や訪問看護ステーションの看護師によって、定期的及び24時間体制での支援をしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	認知症専門医の定期的な往診が必要である。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	高齢化に伴い健康管理は特に重要であり、今後も密に連携を取りたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	病院関係者及び家族と相談して、早期退院に向けて支援したい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	今後も重度化やターミナルケアについては状態、状況に合わせて話し合いの中で方針を共有して行きたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		母体が医療法人であるので、医療面の支援や相談は十分できている。また、終末期が近づくと密に連絡し連携体制を取っている。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		十分話し合い情報交換を行い、納得のいく退去先への支援をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応については、接遇の研修に参加するなど職員が自覚を持ち注意してケアを行っている。個人情報については保管場所を決め、取り扱いには十分注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合った声かけを行い、思いや希望を聴きだすようにしている。また自己決定が行えるように誘導・助言を行い、利用者の意見を反映している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、希望があれば時間をずらすなどして対応し、利用者の希望を優先している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望の店があればスタッフが付き添い、本人の望む店に行くようにしている。	毎月、理容師・美容師の訪問があり移動せず、カット・パーマ・カラーが楽しめるようになっている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が声かけを行い、利用者の残存機能を活かしながら準備・片付けなどを一緒に楽しみながら行っている。	○ 月に1度、季節にあった《手作りおやつ》を入居者と一緒に作り楽しんでいる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物と一緒に出掛け購入したり、家族の面会時に持ってきて頂いたりして、状況に合わせて楽しんでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導は時間を決めて行い、トイレで排泄が出来るようにしている。また利用者の観察を行い、タイミングを見てトイレ誘導も行っている。	○	排泄チェック表をいかし、状況に合わせた支援をし、オムツ外しなどにも取り組んでる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば優先的に入浴して頂き、入浴の間隔が空かないように記録を行っている。また、排泄で失敗されたときなどはその都度、入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて入眠して頂いている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりに応じた能力・生活力を活かして役割を果たし、生活に張り合いが出るように援助を行っている。		気晴らしのため、散歩・買い物に出掛けたり、音楽療法・オカリナ・ドッグセラピー・誕生会・生け花・地域の老人会などへの参加など毎月楽しんで頂いている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出掛けたときなどは能力に応じ、支払いをお願いしたり、購入物を選んでもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に注意しながら、入居者と少しでも戸外に出掛けられるように、ゴミ捨てや散歩の声かけを行っている。		地域のボランティアに働きかけ、外出(散歩)支援も定期的に行っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や遠足などを計画し、外出支援を行っている。また、遠足などは家族にも声かけし、参加して頂いている。		毎月、外出の日があり外出している。また、希望があれば日を決めて外出している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より希望があれば電話し、お話して頂いている。手紙のやり取りも声かけにて行い、返事の手紙を喜んでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	1Fのインターホンにて気軽に訪問でき、利用者と居室やリビングにて過ごされている。職員も最近の様子などを報告したりしている。		エレベーター前に面会簿があり、記入して頂くようにしている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部の研修を職員が受講し、また研修後に勉強会を開催し、日々のケアで実践しより良いケアを目指している。鍵をかけない工夫などの課題はある。	○	業務的ではなく、本当の意味で一人ひとりに合わせた「介護」を考え最優先することが、大切なので尊厳を守り質の高いケアに取り組み、ゼロに向けて改善し続けたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、ベランダや窓などを開け少しでも閉鎖感を感じさせないようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の日々の状態を職員で把握し、プライバシーに配慮しながら、所在や様子の確認を行うよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に応じて包丁やハサミなどを利用して頂き、保管・管理を十分に行っている。また、内服に関しても十分に保管・管理を行い、危険防止に取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットに記入することにより職員全員が危険意識を高め、事故につながらないようにしている。火災訓練の参加なども行い、火災防火意識も高めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変・事故発生時のマニュアルを作成している。心臓マッサージなどの初期対応の学習会に参加している。初期の対応は訪問看護師に連絡し、指導をもらい応急手当し隣接の病院に受診している。緊急時は病院に連絡して受診している。	○	全ての職員が応急処置・対応が100%出来るように、定期的な訓練等に参加する機会を増やしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練はしているが、地域の人々の協力体制までは出来てない。	○	地域の人々への協力体制作り。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時の転倒リスクシートチェックを元に説明し、また心身の状態変化に伴い、その都話し合っている。職員間でも話し合い対策を立て、ケアを工夫している。家族に協力してもらうこともある。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフ全員が入居者を一人ひとり把握しており、日々の変化の発見に努めている。変化があった場合は、申し送りにより情報の共有化が出来ており、対応に結び付けている。		訪問看護師と密に連絡を取るようにスタッフ全員が意識しており、緊急時にも対応できるようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬ファイルがあり、利用者ごとに服薬している薬の目的や副作用がわかるようになっている。		内服に変化があった場合は受診ノートをみて、職員全員が把握できるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排泄のチェックを利用者ごとに行っており、便秘や尿量の少ない入居者は水分を多く摂って頂いたり、牛乳を飲んで頂くなどしている。また、Drや看護師と相談も行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・見守りを行い、チェック表にてチェックを行っている。		6か月に1回歯科医師・歯科衛生士による口腔チェック、指導を受け一人ひとりに合わせた口腔ケアをしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量については、個別に毎日記録を残しておりチェックを行っている。食事量や水分量の少ない方については、個別に捕食や嗜好品などで対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染についてはマニュアルがあり、職員全員が周知している。また、研修会にも参加して感染予防に努めている。		毎日、手すりやテーブルの消毒を行い、汚染物は必ず手袋を使用するなど感染予防に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・調理用具等は毎回、消毒を行っている。食材については毎日、業者に配達してもらい、新鮮な物を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	インターホンにて出入りすることができ、玄関も花を飾るなどして明るい雰囲気になるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居室には生け花があり、各フロアごとに植物を置いたり、飾りを作ったりして季節感を出すようにしている。光が気になる場所には、すだれなどをつけ対応している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはテーブルが置いてあり、ゆっくりとくつろげるスペースがある。また、リビングにはソファがあり、利用者同士が語り合う場所が確保されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族などの写真や生け花が飾られてあったり、家族・入居者と相談しながら利用者ごとに、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中、数回窓を開けて換気を行っている。各居室ごとに温度設定が出来るため入居者に合わせ温度調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下・居室など手すりが設置している。また、バリアフリーになっており、歩行器や車椅子で安全に移動が出来るようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人ひとりに合わせ助言・誘導を行い、自立して暮らせるようにしている。トイレも大きな字でわかり易いようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	一緒に散歩やゴミ捨てなどに行き、川沿いを歩いたりして季節の移り変わりを楽しんでいる。また、ベランダでは植物を育て一緒に水遣りなどを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・季節に合った草花をベランダで育て季節を感じ取れるように努めている。リビングでは壁飾りを利用者と作ったりして季節感をだしている。ボランティアの訪問がよくあったり、家族に面会をお願いしたりと入居者が閉鎖的な気持ちにならないようにしている。各種委員会を月1回開催し、決定した内容は全スタッフに伝達し各スタッフが向上心を持ってケアを行えるように努めていること。